

2025年6月12日

各 位

会 社 名 トビラシステムズ株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 明 田 篤  
(コード番号：4441 東証スタンダード)  
問 い 合 わ せ 先 取締役 C F O 金 町 憲 優  
(E-mail : [ir@tobila.com](mailto:ir@tobila.com))

## 2025年10月期第2四半期決算に関する質疑応答集

2025年6月10日(火)開催の2025年10月期第2四半期決算説明会において、投資家の皆様より寄せられた主な質問とそれに対する当社の回答を、下記の通り開示いたします。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております点、ご容赦ください。

### <全社>

1. 社内計画に対しての第2四半期の進捗を教えてください。

各段階利益については、当初の想定を上回る結果となりました。主な要因としては、以下の2点が挙げられます。

1点目は、ソリューション事業の売上が好調に推移したことです。とりわけ「トビラフォンBiz」においては、カスタマーハラスメント対策商材としての社会的関心の高まりや、代理店との連携強化が奏功し、堅調な導入拡大が進みました。今後もこの流れを継続し、更なる成長につなげていきたいと考えております。

2点目は、人材採用費の一部が当初想定よりも抑制されたことです。第1四半期および第2四半期に支出を予定していた採用費用に関して、入社時期のずれ等により一部が後ろ倒しとなり、結果的にコストが抑制されました。なお、採用活動自体は引き続き順調に進捗しており、第3四半期以降の入社が確定している内定者も多くいます。そのため、今後は人件費や採用費の増加に伴い、各段階利益は一定程度の減少を見込んでおります。

2. 下半期の売上高は約 12 億円の見込みで、上半期より減少することになります。御社のストックビジネスの性質を考えると非現実的にも思えるのですが、ご解説ください。

ご指摘のとおり、当社の売上のベースとしてはストック収益があり、大きく減少する蓋然性は小さいと考えております。一方で、「トビラフォン Biz」の端末販売や、「トビラフォン Cloud」の通話料収入、広告ブロックアプリ「280blocker」の売上など、一定の変動要素を含むフロー収益もございます。これらフロー収益については、市場動向や販売状況によって変動の可能性があるため、今期の業績予想においては一定程度保守的に見積もった上で据え置いております。今期の業績予想を上振れできるよう、しっかりと事業を推進してまいります。

### <セキュリティ事業>

3. JCB へのフィッシング SMS に関する情報提供開始が業績等に与える影響について教えてください。

JCB へのフィッシング SMS 情報の提供開始による業績への直接的な影響は軽微です。一方で、本取り組みは、当社が保有する迷惑情報データベースの具体的な活用事例の一つであり、社会的意義の高い取り組みであると認識しています。今後も、足元で増加するフィッシング詐欺への対応として、JCB をはじめとする各種ブランドの悪用をいち早く検知できるよう、データベースの精度向上に継続して取り組んでまいります。

### <その他>

4. 半報の大株主の状況をみると、外国のカストディアンが増えているように思います。この変化をどのように捉えていますか。

外国法人による株式の保有がこの半期で大きく増加したと認識しています。世界における日本市場の状況、為替の影響など複合的な要因があるとは考えていますが、当社としては、有価証券報告書やコーポレートガバナンス報告書の英文開示の充実など、海外投資家にもご理解いただけるような情報発信を継続してきました。これらの施策が一定の効果をもたらした可能性もあると捉えており、今後も国内外の投資家の皆さまに向けた IR 活動をさらに強化していきたいと考えています。

5. 最近、ネット証券で不正なログイン・取引が相次いでいますが、御社への影響はありますか。

当社では、証券会社の口座への不正アクセスそのものを防止する技術は提供しておらず、本件による直接的な影響は現時点ではございません。一方で、こうした不正アクセスの背景には、フィッシング詐欺によって ID やパスワード等の個人情報が盗まれた上で不正利用されるケースがあるとされており、証券会社各社からも注意喚起がなされています。当社では、SMS を悪用したフィッシング詐欺への対策サービスを提供しており、これにより利用者が偽の SMS やメールによる詐欺被害から身を守る手助けができると考えております。

6. 決算説明資料 P25、従業員数の推移に関してご質問です。上半期に6名を新たに雇い、下半期は16名を採用する予定とのことですが、前期の採用予定だった人数が下半期に後ずれしている、ということでしょうか？また、下半期だけで16名を採用するのはかなりハードルが高いかと思われますが、何としても16名を雇うつもりなのか、あくまで御社の水準を満たす人材を厳選するので、16名に固執するわけではないのか、ご教授ください。



下期だけで26名程度の採用を見込んでおります。当初は通期で約30名の採用を計画しておりましたが、採用時期の後ろ倒しにより、結果として下期に採用が集中する見通しです。昨今の人手不足という社会的背景のなか、25名規模の採用は決して容易ではありませんが、採用活動自体は引き続き順調に進捗しており、第3四半期以降の入社が確定している内定者も多くいます。また、採用数の達成を目的とはしておらず、当社のカルチャーや求めるスキルに適した人材を見極めたうえでの採用を重視しております。今後も、質と量のバランスを大切にしながら、積極的に採用活動を進めてまいります。

#### 【ご参考資料】

- ・2025年10月期第2四半期 決算説明資料（2025年6月10日開示）

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS05546/9ffadef0/e629/4729/9d39/923d5116363c/140120250609585559.pdf>

- ・2025年10月期第2四半期 決算短信（2025年6月10日開示）

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS05546/41c23868/7312/4f66/998f/96a47dbf37cb/140120250609584689.pdf>

- ・中期経営計画2028（2024年12月10日開示）

<https://tobila.com/ir/midterm-plan/>

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

トビラシステムズ株式会社 IR 担当

E-Mail : [ir@tobila.com](mailto:ir@tobila.com)

以上